

役に立つ情報

- マリシャス -



CONSTANCE
HOTELS EXPERIENCE

elegance comes naturally

www.constancehotels.com

歴史

最初にヨーロッパからモーリシャスに来たのはポルトガル人で16世紀初頭のことでした。1598年にオランダ人が島に定住し、時のプリンス、モウリス・オブ・ナッソーにちなみ、モーリシャスと名づけました。そしてオランダ人がサトウキビとジャバ鹿をヨーロッパに紹介しました。その後、オランダ人はサウスアフリカの喜望峰に定住地を求めて、1710年にモーリシャスを去りました。それから5年後にフランスが島を占拠して、「フランスの島」と名づけました。

フランス政府のマエ・ドゥ・ラブールドネによりモーリシャスの開発が始まりました。まず港が築かれました。それが時のフランス王ルイ15世の名にちなみ、ポートルイスと名づけられ、そこがモーリシャスの首都になりました。モーリシャスは近くの島々や寄港する大型船に砂糖やラム酒を提供し、貿易が盛んになりました。

インド洋の戦略基地としても、重要な位置を占めるモーリシャスを巡って、インドへ航海する英国船とフランスがもみ合いになり、1810年から英国が島を占拠するようになりました。そして1814年、モーリシャスの一部は「パリ区」として割譲されましたが、ほとんどのフランス人定住者は島に留まりました。そして、そこではフランスの言語、法律、宗教、慣習などが保持されました。

1835年、英国政府は奴隷制度を廃止しました。その頃、奴隷は主にマダガスカル、セネガル、モーザンビークなどから来ておりました。奴隷廃止に伴い、サトウキビ畑の労働力は年季奉公契約をしたインド人たちとなりました。現在の人口の大部分はその子孫が占めています。

急速に開発が進み、経済基盤もできてきました。無料の初等教育制度も始まり、地方公務員たちもその恩恵を受けています。

モーリシャスは1968年3月12日独立し、英国議会制をもとにした憲法を採用しました。独立直後は大変でしたが、それでも15年くらい経て、経済的にも政治的にも安定してきました。

モーリシャスの政治形態はウェストミンスターをモデルにしており、政治権力は首相と議会にあります。選挙は5年に一度行われます。

みどころ

パンブルムース植物園

まさしく輝く宝石のようなこの植物園は世界中の植物研究家から注目を浴びているところです。そこには多数の土着のエキゾチックな植物、60年に一度しか咲かないと言われる巨大なビクトリア・レジアハスやタリポットヤシなども含まれて居ます。植物園はフランス知事マエ・ドゥ・ラブールドネの敷地内に1767年ピエール・ポワールによって作られました。また1735年に建てられた知事の住居シャトー・ドゥ・モン・プレジールは現在でも見ることができます。

シャマレルの七色の大地

島の中で一番不思議な光景は火山噴火の岩石が変化したと見られる7色の砂丘でしょう。波型にうねり、鮮やかに色のコントラストをあらわした土の層はシャマレル滝から車ですぐのところで見ることができます。

カゼラ・バード・パーク

バンブーとリビエール・ノアール地区のタマリンの間にあるこのバード・パークは世界中からの140種の鳥の住処になっています。一番人気があるのは珍種のモーリシャス・ピンクピジョンでドードーの二の舞になるのを必死に防ごうとしています。そこには150歳の亀もいます。パークは毎日午前9時から午後5時までオープンしています。

イル・オ・セルフ(牡鹿島)

現在ル・トゥエスロック・サン・ホテルが所有しているこの小さな島にはもう牡鹿は生存していませんが東海岸にはたくさんの旅行者がやってきます。フェリーは午前9時から午後4時までの間に数回往來しております。ル・トゥエスロック・サン・ホテルに滞在している人は無料です。フェリーを降りるとちょっと奥まったビーチがあります。ラグーンではマリンスポーツや日光浴を楽しんだり、レストランに行ったり、お土産店を見てまわることも楽しいでしょう。海辺の辺りしか歩くことはできませんが、フェリーを降りてから時計回りに島を半周してみるのもいいでしょう。島のポートハウスでは水上スキー、ペダルボート、セーリングボート、サーフキャット、レーザー・ディンギー、カヌーなどを借し出しております。グランド・リビエール・スト・エスト滝までの2時間のボート遊覧や、島のツアーを楽しむのもいいでしょう。

ドメヌ・レ・パイユ

ポートルイスから南に10分ほど行くと、モカ山脈の麓3000エーカーにわたって広がる自然公園のドメヌ・レ・パイユがあります。公園内をまわるにはランドローバー、馬車、列車などを利用するといいいでしょう。庭園にはスパイスガーデンがあり、湧き水もわいています。そこには昔、ラム酒を作るために使われた砂糖圧搾機のレプリカ「アラムビック」も置かれています。

水族館

ポワントーピマンとトゥルオビッシュの間にあるこの水族館には200種の土着の魚類、無脊椎動物、珊瑚、海綿類などが生殖しており、インド洋のユニークな一面を見ることができます。

ドメヌ・デュ・シャスール

島の南東に位置し、マヘバーグの近くにある1950エーカーにわたる緑滴るドメヌ・デュ・シャスールには約1000頭の鹿や多数のいのししが生息しておりますので、鹿狩りを楽しむことができます。散策を楽しむ人たちには5キロまたは15キロコースがありますので、途中でめずらしい木や保護鳥のチョウゲンボウ・ハヤブサを見た後、パノラマ景観が広がるレストランで典型的なモーリシヤス料理を満喫しましょう。ハンターやウォーカー、グルメたちに是非お勧めのところです。

レ・ヴァル・ネイチャー・パーク

島の南東のクラニに位置し、ここではえび、うなぎその他の淡水魚などの生息を見ることができます。またグリーンハウス、クレソン池、鹿公園もあり、そのほか猿やいろいろな種類の鳥も生息しています。

バナラ鱔&亀パーク

この輝くような森に入ると、甘美な熱帯の花園に出会うでしょう。この土地特有のエキゾチックな植物も見つけてみましょう。バナナの木、ヤシの木、それから巨大な竹も茂っています。そこでは1000頭以上のナイル鱔も生まれ、飼育されていますので、飼育池で泳いでいる姿も見ることができます。危害は加えませんのでご安心ください。

ウォーターパーク

ブラック・ホール、ジャイアント・スライド、こども用プール、マッシュルーム型シャワー、キャンディ・スポット、おとな用プール、ジャグジー、海賊の饗宴ファーストフード、レイジィ・リバー、食べ物キオスク、クレジィ・リバー、マルチ型スライド、マウンテン・スカル、波のプール、海賊プラザ、ラ・マルオトレゾー・ロゴ・ショップなどがあります。

交通

タクシー

たいていホテルの外で待っていますが、ホテルのレセプションで手配することもできます。料金は交渉制ですが、おおよその運賃は区間ごとに決まっていますので、まずフロントでお尋ねください。

バス

島内には数社のバス会社があり運行はあまり正確ではありませんが、効率よく網羅しています。どこからでも乗れますが、バスの発着中心地はキュールピップとポートルイスです。バスチケットは安いですが、車掌がチェックにきますので、しっかりと手に持っています。

レンタカー

日本と同じ左側通行。最低1年間有効の運転免許が必要です。1600キロにわたる美しい風景のドライブコースがありますが、道路はスムーズなところから舗装されていないデコボコ道もあります。数社のレンタカー会社がありますので、旅行代理店のアドバイスを受けてください。1日レンタカーでまわること島内のことがよくわかるようになります。